

個人カルテ

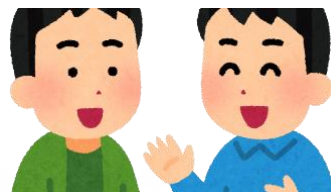
域内の小中学校では、もうすぐ15日間の冬休みを迎えます。子供たちは、長い冬休みをどのように過ごそうかと考えている真っ最中だと思います。

さて、11月26日（火）に開催された第2回県学力向上対策会議の中で、いわき市の実践事例が紹介されました。「いわき市教育委員会では、『学力に関する調査について、（学校・学級ごとに実態が違うので）市全体で語ってもあまり意味がない』という認識に至り、『学校カルテ（学校・学級ごとの分析資料）』の作成を目指した」という内容でした。

南会津域内においても、授業実践の充実に向けて、各校で全国学力学習状況調査やふくしま学力調査の結果分析に取り組まれたものと思います。南会津教育事務所でも、域内すべての小中学校の調査結果を確認し、解答や児童生徒の生活習慣の傾向を分析しました。

ふくしま学力調査については、学力を大きく伸ばし、なおかつ県平均を上回ったクラスが、域内には対象59（小4～中2）クラスの中に12クラスありました。これらのクラスは、児童生徒質問紙の下記の項目について、肯定的回答の割合が高いことが分かりました。

- 学級は落ち着いて学習する様子である。
- 学習の準備を整え、授業に臨むことができている。
- 先生や友達の発表をしっかりと聞き、発表することができている。
- 話し合いや交流によって、考えをしっかりと持てるようになった。
- 話し合いや集めた資料から、考え方が変わったり深まったりした。
- 先生は、分かるまで教えてくれる。
- 家庭での1日あたりのインターネット使用量が2時間以内。
- 月に3冊以上読書をしている。
- 休日の家庭での1日当たりの学習量が1時間以上。



なお、ふくしま学力調査について、「安全・安心な学級風土づくり」によって学力を高めた域内の小中学校の取組等が掲載された事例集（県教委作成）を後日お届けしますので、ぜひ3学期や次年度の実践にお役立てください。

さらに、個人に焦点を当てて域内の児童生徒質問紙を分析していくと、正答率の高い子は、授業に関して下記の傾向にあることが分かりました。

- 「ノートに書く」「声に出す」などの作業を確実にやっている。
- 計画的に学習に取り組んでいる。
- 自分の状況に合わせて学習方法を柔軟に変更している。
- （好き嫌い等の）感情をコントロールして学習意欲を高めている。



学力向上という点では、先生方が時間をかけて作成して下さった「通知票」や全国学調・ふくしま学調・NRT等実施後に返却される「個人票」は、「観点ごとの達成状況」「領域ごとの到達度」「平均値との比較」など、一人一人について詳しい分析がなされた最も身近で具体的で有益な「個人カルテ」だと捉えます。

「通知票」や「個人票」が配付された後、児童生徒の取組の様子に変化は見られるでしょうか。子供たちは、右図のように可視化された自分の学習状況を「見て」、自身の学習改善に「つなげて」いるでしょうか。

域内の多くの学校の児童生徒が、先生方のご指導の下で家庭での自主学習に励んでいます。興味や関心のあることに取り組むことも大切ですが、バランスよく力を高めるには、「個人カルテ」等をもとに、ときには苦手なことにチャレンジすることも必要です。

今年度、大きく学力を伸ばした学校のひとつである域内のある中学校では、「ノー勉強ゼロ」を掲げ、先生方が作成した「学習の手引き」を生徒に配付し、家庭学習の一層の充実に努めてきました。「学習の手引き」には、教科ごとに下記のような「不得意な内容の克服の仕方」や「得意な内容のレベルアップの仕方」などが具体的に示されており、生徒の「何をすればいいの？」を解決する大切なアイテムになっています。

2 個人結果票の見方について

お子様の学力のレベルを赤いバーで示しています。小学5年生以上は、令和5年度調査のレベルと比べることができます。それぞれの学力のレベルはさらに3層に分かれています。同じ学力のレベルでもより細かく「学力の伸び」が分かります。

特長 その1

今後の学習に生かすことができるように、一人一人に応じた学習に関するアドバイスが示されます。お子様が家庭学習をする上で、どのようなところに力を入れればよいか分かります。

※ 発達段階に応じてお子様にわかりやすく説明してあげてください。

教科の領域等別正答率として、県の平均正答率と、お子様の正答率が示されます。お子様の得意分野と苦手分野が分かります。

国語

教科に関する調査結果

今年までの学力の変化

あなたの学力は、レベル10まで伸びました。

レベル12
レベル11
レベル10
レベル9
レベル8
レベル7
レベル6
レベル5
レベル4
レベル3
レベル2
レベル1

今年度の調査で測定した学力の伸び

学習に関するアドバイス

あなたの国語の学力は、前年度(1年)の学習により、大変大きく伸びています。自分の学習への意欲に自信を持ち、上記のように頑張るよう、今後(家庭)などの学習活動に積極的に取り組んでください。

読書(ことば)に力をつけ、書かば、大まかに学びました。さらに力を伸ばすために、読書(ことば)には、辞書の活用や表紙を尊重した作品を選び、自分の考えを述べることができるよう心がけましょう。自分の考えが目的にわたっているかを考えて読んだらすることも大切です。書物には、紙面に沿って正しい文章となるように、漢字や句読点も入念に確認しましょう。

また、読書時には、書かれた文章で書かれています。

県全体の正答率分布と、お子様の正答率が示されます。県全体における、おおよその位置が分かります。

教科の領域等別正答率

教科	領域	正答率(%)	平均正答率(%)
国語	読解	12	10.0
	書写	8	10.0
	表現	9	10.0
算数	計算	10	10.0
	図形	10	10.0
	数量	10	10.0

県全体の正答率分布

正答率

80%
70%
60%
50%
40%
30%
20%
10%
0%

あなたの正答率は、県全体の正答率分布の中にある位置にいます。

共同調査の結果 ～経年調査による学力の達成目標～

横軸は学年、縦軸は到達度を示しています。

「ふくしま学力調査保護者用リーフレット」より

勉強ゼロ」を掲げ、先生方が作成した「学習の手引き」を生徒に配付し、家庭学習の一層の充実に努めてきました。「学習の手引き」には、教科ごとに下記のような「不得意な内容の克服の仕方」や「得意な内容のレベルアップの仕方」などが具体的に示されており、生徒の「何をすればいいの？」を解決する大切なアイテムになっています。

- 新出の語句を使って短文を作ろう。(国語・英語)
- できないことをできるようにするのが勉強です。教科書などを見直し、「できる問題」と「できない問題」を区別しよう。できない問題の解き方を調べ、解けるようになるまで繰り返そう。ただ漫然と取り組んでも効果はありません。(数学)
- 教科書を何度も音読しよう。黙読よりも内容が頭に入ります。(英語)
- 教科書の内容を読むと、頭の中で学習したことを整理できます。(社会)
- テスト範囲が発表されたら、すぐに目標と学習の計画を立てよう。(全教科)
- 家庭学習時間は毎日90分以上確保するように努めましょう。
- 1日のメディア利用時間の合計を2時間以内に抑えましょう。

要請訪問等で学校を訪れるたびに、日々、先生方が「こんな姿になってほしい」という思いで、充実した授業を提供して下さっていることを実感してきました。先生方の授業実践を確実に定着につなげるには、「授業とつながる家庭学習の充実」が欠かせません。

これから迎える冬休みの学習や受験の準備の中で、ぜひ「個人カルテ」や「家庭学習の充実」にも目を向け、3学期の授業につなげていきましょう。